

国際交流センター

NEWSLETTER

Jun. 2020 Vol. 59

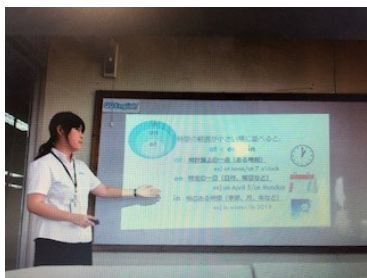
フィリピン(セブ島) インターンシップ参加者の感想

2019年10月～2020年3月の期間で、QQEnglishのインターンシップ実習に参加した2名の学生の感想を紹介します。実習期間中は、QQEnglishが用意した寮に宿泊し、送迎シャトルバスの使用や3食の食事すべて無料で提供されました。

慌ただしくも充実した半年間

河原 未歩 (文学部言語文化学科 2回生)

私がセブ島へのインターン留学を決めたのは、自分自身のよくばりな性格が故でした。元々長期留学に興味があったのですが、せっかく休学してまで留学するのだから英語だけではなくそれ以外のものも持って帰りたいと考えていたのです。そんな時、大学で新たに、英語のレッスンと海外でのインターンを両方経験できる「セブ島プロジェクト」なるものが始動したことを知り、「探していたのはこれだ！」と即座に応募を決めました。この留学は、現地の語学学校『QQEnglish』で1日5時間インターンとして働き、4時間英語のマンツーマンレッスンを受けるといったものです。仕事の方は、インターンとしてはかなり珍しいようですが、語学学校での授業のクオリティを管理する部署に配属されました。そこでの私の業務は、新たな教科書の製作と翻訳作業、そして日本人生徒に向けて英文法の授業をすることです。初期の頃、この授業がかなり大変でした。授業で扱うPPTの製作には今まで私が作ってきたものとは比べ物にならないくらい緻密且つ分かり易いものが要求されますし、塾講師のバイト経験もなかった私は、すぐに授業を組み立てることの難しさに直面しました。しかも、語学学校の生徒さんのほとんどは私より年上でしたので、「こんな小娘が先生なんて不満に思っているに違いない」と内心ビクビクしながら授業をしていました(笑)。



しかし部署の先輩と上司が何度もフィードバックに付き合ってくださいのおかげで、徐々にどういう話し方や見せ方、授業の組み立てが生徒さんにとって分かり易いのかを学び、苦手だったパソコン業務に関して作業効率が上がっていきました。余談ですが、この経験が帰国後、英語の教員免許取得を私に決意させたのです。

そして仕事が大変だった分、レッスンは私にとって息抜きとも言える楽しい時間でした。フィリピン人の先生方は皆陽気で、授業ではマシンガントークが炸裂します。負けじと私も話すようになり、その結果スピーキング能力が向上したのではないかと推察しています。

先生方に限らずですが、フィリピン人は貧しい生活の中でも、陽気でおおらかな人が多いように思います。半年経つ頃には私もコンビニで歌を歌いながら買い物していましたが、私たちはこの現象を『フィリピンナイズ』と呼んでいましたが)。確かに、フィリピンは発展途上国で生活環境は日本よりかなり劣りますが、それを吹き飛ばすだけのパワーが人に備わっています。一日本人として、その国民性から学ぶべきところは多かったように感じました。

休日には、観光に出掛けました。「セブ島」というリゾート地のイメージが強いですが、私が住んでいたセブ市内は控えめに言ってもリゾートとは程遠いものでしたので、週末ぐらいはと片道4時間も5時間もかけて観光に行きました。海はどこも信じられないくらい透き通っていて、この先日本で海水浴を楽しめるのか心配になるほどでした。実はダイビングの免許も取得してみたのですが、あまり楽しさを見出せないままに終わってしまったのはここだけの話です(笑)。

セブでのインターン留学は、納得のいかないことや大変なこともありましたが、慌ただしくも充実した半年間でした。全く日本とは異なる環境だからこそ得られた知識や経験をこれからの大学生活、そして将来に活かされるよう精進していきたいと思えます。

Inside This Issue



フィリピン(セブ島)インターンシップ参加者の感想



CotoQueイベント



2019年度「ならじょから留学キャンペーン」

セブでのインターンを通して

徳田 真央（文学部言語文化学科 3回生）



2019年10月より半年間、フィリピン QQEnglishセブキャンパス（ITパーク校）でのインターンシップに参加した。週25時間の業務補助を行い、英会話レッスンを週20時間受講させていただけのインターンシップであった。

業務内容には、空港での生徒のピックアップやフロントデスク業務、オンラインレッスンのサポート、教材研究・開発などがあり、私は日本人向けカスタマーサポートの補助業務とオンラインレッスン教師サポート業務に従事した。カスタマーサポート業務では、生徒の要望をくみ取り、適切な対処をすることが必要であったため、クレーム対応のための聞き取り・読解能力やコミュニケーション能力、落ち着いて対応できる精神力及び社会性を養うことができた。

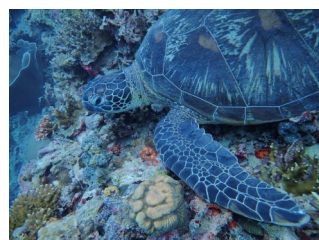
インターンシップでは、「誰かがやってくれる仕事、誰がやってもいい仕事」のアルバイトとは異なり、「自分に割り振られた仕事、自分がやるべき仕事」があった。指示を待つだけでなく、自分で考え、自分で責任を持たなければならず、1つの会社という組織の中で1人の社員として働くことの困難さ、そしてやりがいを知った。

レッスンではスピーキングとリスニングのカリキュラムを重点的に履修した。カランメソッドなどの効果的なカリキュラムを受けることができ、先生の方分かりやすいレッスンにより、QQEnglishで4週間ごとに行われていたプログレステストの結果は大幅に向上した。

また、単純な英語力の向上のみならず、英語の効果的な学習法や教授法も知ることが出来た。教員免許の取得を考慮しているため、TESOLを保持している先生の授業を直接受けることが出来たのも予想外のメリットであった。

休日には、南国のフィリピンならではの楽しみ方ができたのも、素晴らしい経験であった。エメラルドグリーン的大海やカラフルな魚たちとサンゴ礁、バナナやココナッツの並木道など、日本では見られない風景を何度も楽しめた。

初めての海外渡航ということもあり、不安もあったが、多種多様な学びが出来る素晴らしい機会であった。ここで得た学びを、自身の研究や教員免許取得、社会でも役立てていきたい。



CotoQueイベント

自宅で過ごす日が多くなった学生たちも参加できるように、テレCotoQueがスタートしました。

「日本語オープントーク」では、留学生と日本人学生がグループになりオンラインで気さくに話しています。海外や近畿圏以外の実家など、大学へ通学することが難しい学生も参加しているので、話題は尽きないようです。また、第4回目になる「チェミ！」では、韓国のアイドルやドラマの話で盛り上がりました。



引き続き学生スタッフも募集しています。CotoQueでの活動をきっかけに友達を作りたい人やオンラインだからこそできるイベントの企画を考えてみたい人、誰かといっしょに新しく何かを始めてみたい人など、興味がある人は国際交流センターにメールをください。

大学会館2階国際空間CotoQueには、「イベントアイデアの木」というポスターが設置されています。付箋を置いているので、イベントのアイデアを書いて貼り付けることができます。2019年度に開催したイベントを紹介するポスターもありますので、大学に来られた際にはお立ち寄りください。



2019年度「ならじよから留学キャンペーン」

2019年7月1日～2020年3月31日の期間で、148名の学生が奈良女子大学から留学しました。

このキャンペーンは、留学前に提出が義務付けられている「海外渡航届」を国際課へ提出することでエントリーが完了します。留学の目的は、語学だけでなくインターンシップやボランティアも含まれています。該当者には、「かわいい記念品」（2019年度は、国際交流センターオリジナル付箋）を差し上げています。みんなで留学して、記念グッズをもらおう！

まだ貰っていない人は
国際交流センターに
取りに来てくださいね！



奈良女子大学 国際交流センター

NEWSLETTER Vol.59 2020年6月発行

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

TEL: 0742-20-3736

Email: iec@cc.nara-wu.ac.jp

センター及び国際課の活動

4/8

4/30

5/26,28, 6/3,10,16,18

6/23

新入留学生オリエンテーション

テレCotoQue スタッフミーティング

テレCotoQue 日本語オープントーク

テレCotoQue チェミ！